

サステナビリティ レポート

2021年版



CEOからの メッセージ

Permobilはサステナブルで信頼のおけるビジネスを約束しています。
当社は、社会の誰もが充実した人生を楽しみ、可能性を最大限活かせるようになることを願っています。

仕事を通してユーザーの生活をより良くすることは、私たちの働き甲斐となっています。それは当社の目的である個人の変革、そしてユーザーファースト、リーダーシップ、情熱、信頼という価値観に集約されています。しかし、私たちはそれだけで満足しません。

Permobilでは、すべてのステークホルダーのための変革を目指しています。そのため、2021年、当社は以下のようなサステナビリティの4つの柱に基づく、長期的なコミットメントを策定しました。

- ユーザーにとっての利点：生活の質を向上させ、最高水準の製品サービス、品質、安全性を確保
- 従業員にとっての利点：ダイバーシティとインクルージョンを特徴とする安全で皆が尊重される職場を構築
- 環境にとっての利点：環境への影響を最小限に抑える
- ビジネスとコミュニティにとっての利点：強力な企業倫理と責任ある調達

2021年、当社はサステナビリティ重視の姿勢を強化するため、多くの取り組みを行いました。多くの分野で、私たちは新しい境地を切り開いています。私たちは、当社の製品が人々の生活の質に与える影響を理解し、それを製品に反映させるよう尽力してきました。これを正しく行えば、当社製品のユーザーのために物事を改善できるだけでなく、業界の他の人々の道しるべにもなります。当社はまた、職場のアクセシビリティならびに従業員のダイバーシティとインクルージョンに関する高い基準を設定するよう努めています。

2021年、私たちは現状を評価することから始めて、その種を蒔きました。Permobilにとって世界初である、中国のBack to the Futureプログラムはさらなる成功を収めました。車いすユーザーを営業チームで雇用し、トレーニングすることで、技術や知識を身につけ、職場への復帰を支援することができるのです。

2030年に向けて、当社は野心的な炭素排出量削減目標を定めており、工場内およびサプライチェーン内の両方で、環境への影響を最小限に抑えるべく懸命に取り組んでいます。2021年も、サプライヤー行動規範の導入および全従業員を対象とした年次行動規範トレーニングを継続しました。。

当社は継続的な改善に重点を置いており、決して立ち止まることはありません。

今後数年にわたり、すべてのステークホルダーのために物事を改善する取り組みを継続していきます。私は、当社の目標が実現しつつあることを誇りに思います。当社は継続的な改善に重点を置いており、決して立ち止まることはありません。



敬具

Bengt Thorsson
CEO



サステナビリティに 対する当社のアプローチ

Permobilは、企業責任と社会的責任の長い伝統を誇っています。私たちは、すべての人が充実した生活を送り、潜在能力を最大限生かすことを望んでいます。当社は、障がいを持つ人々がそれを実現できる製品とサービスを提供しています。

事業を通して、私たちは製品のユーザー、社会、従業員、環境に対して、持続可能な開発に貢献する特別な義務を負っていると考えています。Permobilは、長年にわたり法定最低基準を超えるレベルを満たしてきました。また、2016年から国連グローバル・コンパクトのメンバーとして、10原則の実施について毎年報告しています。さらに、Permobilの所有者であるInvestor ABが保有企業に課しているサステナビリティに関する要件にも従っています。

現在、当社はサステナビリティへの取り組みの次のステップへと進み、アプローチを7つのサステナビリティ重点領域として整理するとともに、野心的な目標を設定しました。

サステナビリティに関するポリシーと規範

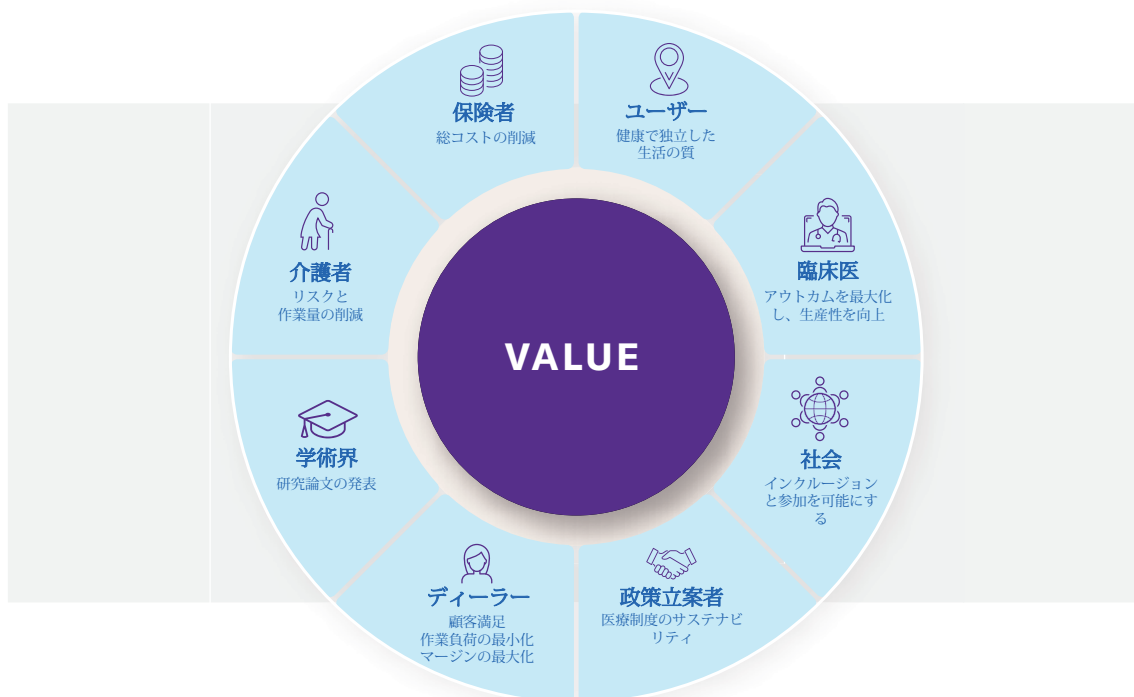
- Permobil行動規範は、Permobilにおける行動と倫理の基準を定めるもので、コアバリュー、従業員、顧客/ユーザー、製品と機密性、ビジネス倫理、社会と環境の各トピックを取り上げています。取締役会が毎年見直しを行います。
- サプライヤー行動規範は、サプライヤーへの期待を定めています。取締役会が毎年見直しを行います。
- サステナビリティポリシーは、サステナビリティへの取り組みと7つの優先分野について概説しています。2021年に初めて採択され、取締役会が毎年見直しを行います。

これらすべての情報は、会社のウェブサイトで公開されています。

www.permobil.com/this-is-permobil/sustainability.

優先事項の 設定方法

Permobilは、ステークホルダーに最大の価値を提供しその期待に応える方法に基づいてサステナビリティ優先事項を確立するため、重要性分析を実施しました。



また、当社の優先事項を定義するにあたり、国連グローバル・コンパクトおよび当社のオーナーであるInvestor ABが策定した要件も考慮し、当社の優先事項がPermobilのユーザーファースト、リーダーシップ、信頼、情熱というコアバリューを支えることを確実にしました。

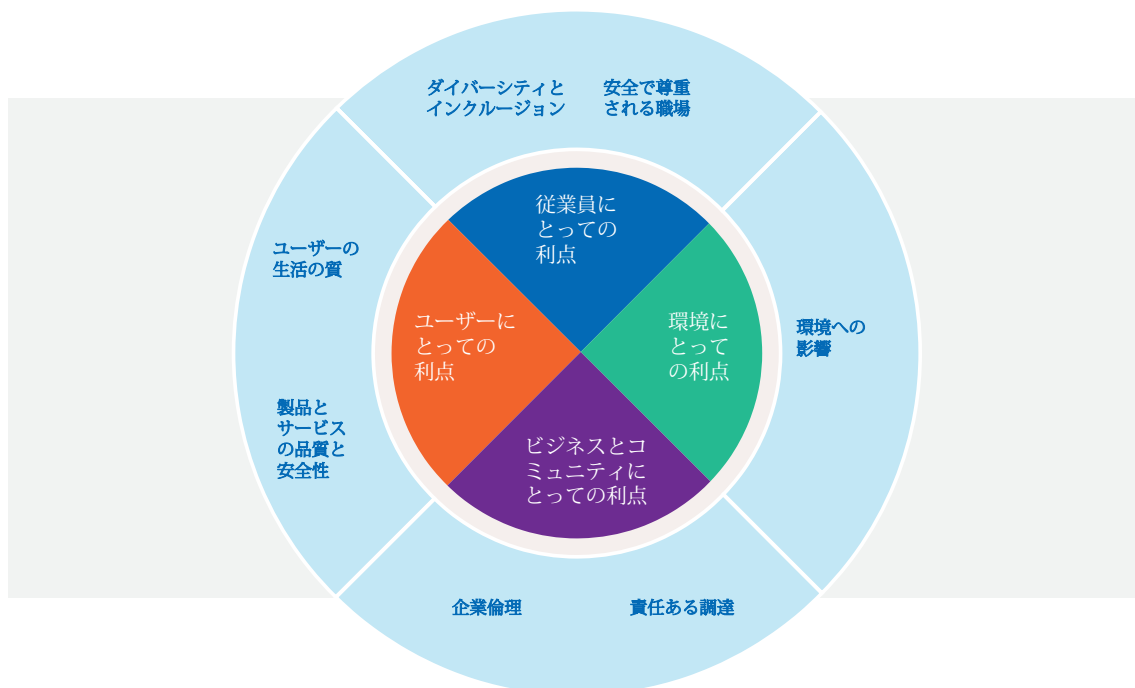
私たちは、持続可能な開発に資すると当社が判断した以下のような7つの重点分野を特定し、それぞれについて目標とそれに関連する行動を定義しました。

- 環境への影響
- ダイバーシティとインクルージョン
- 安全で尊重される職場
- 製品とサービスの品質と安全性
- ユーザーの生活の質
- 企業倫理
- 責任ある調達



当社のサステナビリティ ガバナンス

Permobilの取締役会が持続可能な開発の方向性を定めます。グループ管理チームは当社の優先事項を定義してサステナビリティ目標値を設定する責任を負っています。



当社のサステナビリティ担当ディレクターは、2022年からこれらの優先事項の実施を主導する責任を担っています。

関連部門は、目標値の実施と達成に責任を負います。この仕組みにより、目標達成に最も大きな影響を及ぼす従業員が目標の責任者となります。サステナビリティは日常業務のあらゆる側面に統合され、目標のプランニング、開始、フォローアップが当社の企業DNAの一部として組み込まれ、継続的な改善を通じて目標を達成することができます。

当社は、ユーザー、ステークホルダー、そして社会全体に提供する経済的、環境的、社会的利益を最大化するため、Permobilの全従業員がサステナビリティに責任を負うべきであると考えています。

Antができるなら、 私もできる！

Anthonyのストーリー



私はAnthony Sanchezです。私は、テキサス州フォートワースに住むモデル、俳優、ソーシャルメディアインフルエンサーです。

2014年にバイク事故を起こして、胸から下が麻痺する脊髄損傷を負いました。その年、10年間就いていた職を失い、ガールフレンドとも別れました。娘は当時8か月でした。

言うまでもなく、これは私の人生で最も困難な年でした。失業と重度の障がい直面したシングルファーザーが、子育てしようというのです。それ以外にも、車いすを分解したり、車に乗り降りしたり、娘を抱っこしたりするなど、怪我をしたために格闘すべき日常生活上の問題が多数ありました。

リハビリで初めてPermobil TiLite Aero-Zを使って以来、私はすっかりこの椅子に魅せられています。TiLiteは決して私を失望させず、それどころか人生を好転させるための大きな支えとなっています。もちろん、今に至るまで、そして特に最初は大きなチャレンジに遭遇しました。

私は体重が大幅に増え、うつ状態に陥り、自分に対する自信も失いました。ある日、私は鏡に映る男性がかつての自分とまるで違うことに気付きました。その姿にぞっとした私は、行動を起こす決心をしました。最初は自宅の車道だけで周回を始めました。すると引き締まり、体力が付き始めたのです。TiLiteのアルミフレームは超軽量なのでスピードを出しやすく、汗をかくにも最適です！

パンデミックが始まったとき、私はTikTokとInstagramに自分の変革について投稿を始めました。今では38万人以上のフォロワーがいます。私が何年も前からアドバイスしたかったことを多くの人々と共有できるのは、素晴らしい経験です。

私はさまざまな場所に出かけるので、簡単に折りたためる車いすはとても重宝しています。タクシーの運転手にはこう言います：「あの車いすは僕の足なんだから、大切に扱ってくれよ」でも大抵の場合、運転手は問題なく運んでくれます。

TiLiteについて最も気に入っているのは、私が自分自身、私のコミュニティ、そして何よりも娘にとってのロールモデルとなる手助けをしてくれたことです。私のスローガンはこれです：「Antができるなら、私もできる！」娘には、どんな問題も乗り越えられることを理解してもらいたい。Permobilの車いすがあるので、娘が必要とするとき、私はいつでも彼女のそばにいられます。

ユーザーの 生活の質

Permobilの目的は、個人の変革です。この目的を達成するための最重要課題は、ユーザーがより良い生活を送れるよう、当社の製品とサービスを継続的に改善することです。

- 目標：2022年に適切な対策をさらに検討
- 実績：該当なし

当社のアプローチ

世界中の何百万人もの人々が運動障がいを抱えており、人口の高齢化はこの数字がますます大きくなることを意味します。しかし、臨床医、介護者、医療当局、およびモビリティ分野は、運動障がいと移動補助具が生活の質に与える影響をまだ十分に理解しているとは言えません。

Permobilでは、車いすやその他のソリューションが、車いすを使用する人々の生活の質に与える影響を明確化しようと試みています。誰もがそれぞれ独自の世界を持っています。当社の製品とサービスを支えとして人々が自分の望む方法で生活できるよう、私たちは努力を重ねています。

人々の生活の質（QoL）への影響を理解することで、既存のソリューションの継続的な改善を確保し、ユーザーのニーズにより良く適合する新しい製品やサービスの開発を可能にしたいと私たちは考えています。

2020年以来、当社は人々の生活の質を測定する多くの方法を模索してきました。一般的に使用されるQoL転帰尺度には、寝たきりと歩行にわたる、身体的な視点からの可動性が含まれるため、私たちの要件には適していません。

当社では、主要業績評価指標として使用できる新しい指標の特定に取り組んでいます。私たちは、この指標から必要な情報を得ることができます。

「Permobilでは、当社の車いすやその他のソリューションが生活の質に与える影響を特定しようとしています。誰もがそれぞれ独自の世界を持っています。当社の製品とサービスを支えとして人々が自分の望む方法で生活できるよう、私たちは努力を重ねています。」

Karin Leire

研究・イノベーション担当副社長



Read more about the Inclusive Sales Team on page 19

2021年に私たちが行ったこと

2021年、Permobilは、2020年にウェールズのバンゴー大学で開発されたアウトカム指標に基づき、665人の電動車いす使用者を対象にパイロット調査を実施しました。モビリティ関連QOL 7D (MobQol-7D) は、特に運動障がいおよび移動補助具が生活の質に及ぼす影響を評価するために設計された、初の患者報告アウトカム尺度です。

MobQol:

モビリティと生活の質の7つの側面

1. アクセシビリティ
2. 貢献度
3. 痛みと不快感
4. 独立性
5. 自尊心
6. 気分と感情
7. 不安

University of Bangor

パイロット調査の結果は非常に有益で、当社の製品およびサービスがユーザーに与える影響に関する確かな証拠が得られました。次回はより多くのユーザーからより多くの証拠を集め、当社の製品やサービスがユーザーに与える影響を主要業績評価指標に正確に反映させるようにする予定です。

2022年の計画

2022年は、パイロット調査をより大局的な視点から理解し、ユーザーのベースライン MobQol スコアを確立するためのさらなるグローバル調査を実施する予定です。このスコアは、以後毎年測定に使用できるものとして設計します。

Permobil 財団

PERMOBIL財団について

Permobil財団は、米国で運営されている非営利組織です。この組織は、障がいの有無にかかわらず、誰もが限界なく夢を叶える機会に値するという私たちの信念を導く道しるべです。

同財団は、移動が困難な人々の生活の質を向上させるための貴重なサポートと支援を提供しています。寄付の分野には以下のものがあります。

- 高度なリハビリテーション モビリティソリューションと補助具の寄付
- 障がい者募金イベントの後援
- プログラムに基づくニーズと大学奨学金への助成金
- 従業員のためのボランティア機会の提供

これまでの実績

2017年の設立以来、財団は2,622人の人々を支援してきました（2021年末までの累計）。2021年だけでも、車いす用電動昇降機を800台、その他の椅子部品を121個、SmartDriveを10個、車いすサプライズギフト14点で800人以上の人々を支援し、155の非営利団体を援助しました。

Permobil財団が支援するパートナーシップ

長年にわたり、Permobil財団は障がいを持つ人々の生活を改善することを目標に、インスピレーションを与える多くのパートナーシップを支援してきました。これらのパートナーシップには、NFL（ナショナルフットボールリーグ）、NHL（ナショナルホッケーリーグ）、MLB（メジャーリーグベースボール）が含まれます。

財団は2021年まで4年連続で、Team Gleasonとともに活動しました。Team Gleasonは、NFLの元選手、Steve Gleasonが運動神経疾患の一種である筋萎縮性側索硬化症（ALS）と診断された後に設立した財団です。Permobil財団はまた、米国ALS協会の最も長期にわたる全国レベルのパートナーであり、過去10年間で180万ドル以上を寄付しています。

昨年、Permobil財団は、600台の車いす用電動昇降機をTeam Gleasonに寄付し、ALSとともに生きる人々に利益をもたらし、Team Gleason Adventureを後援しました。

2022年の計画

2022年、私たちは野球チームのサンフランシスコジャイアンツ、カンザスシティロイヤルズ、シカゴホワイトソックス、Phi Delta Theta Fraternity、LiveLikeLou Foundationと連携し、Lou Gehrig DayにALSを持つ人々にフィールドでPermobilパワーチェアを贈呈します。Lou Gehrigは、ALSで亡くなったニューヨークヤンキースの選手でした。



Lou Gehrig Day当日、Dan WingerterはPermobil財団からカスタマイズされたPermobilパワーチェアを受け取ります。後にいるのは、姉のJudy Wingerterです。

製品とサービスの 品質と安全性

- 目標：1か月後の顧客保証クレームゼロ
- 実績：2021年：追跡対象の全製品ラインで1.17%、2020年：1.67%

当社のアプローチ

Permobilは、車いすやその他の製品を使用する人々への約束を守ることに情熱を注いでいます。それは、製品を受け取る人々に喜びをもたらすことを意味します。そのため、当社は納品後30日以内の顧客クレームをゼロにするという野心的な目標を設定しました。

クレームをできるだけ迅速に減らすため、ユーザーのフィードバックを収集して継続的に分析することにより、問題から学び、正しく処理できるようにしています。

ユーザーの生活の質

18の市場で事業を展開するグローバル企業として、当社は常に各市場のニーズに合わせて顧客サポートプロセスをカスタマイズしてきました。2021年には、顧客クレームを把握し、そこから学ぶための一貫したシステムとプロセスを導入しました。

年末までに、保証クレームが1.17%に減少しました。一部の製品ラインの保証クレームにおける根本原因は、注文ミスであることが判明しました。そこで、この問題を解決するために、数年がかりでシステムを自動化するプロジェクトを立ち上げました。

ROHO製品の最小返品数も環境に利益をもたらします。当社は年間30万個以上の製品を販売しているため、返品を減らすことで梱包や出荷を最小限に抑えることができます。

当社の市場とその組織の複雑さを考慮し、2021年は市場ごとに異なる目標を維持することを決定しました。当社のシステムとプロセスが成熟するにつれ、当社は納品後1か月以内保証クレームゼロという、単一のグローバル目標の達成に向けて前進できるものと予想しています。

2022年の計画

今年、特に最初の1か月間は、ユーザーが問題を発見した製品数の削減に引き続き取り組んでいきます。私たちは個々の問題をより迅速に解決して根本原因を特定できるよう、より良いデータおよびより良いユーザーフィードバックを収集するべく尽力しています。



「製品の品質に重点を置くことは、当社とユーザーの双方にとってメリットがあります。ユーザーにとっての問題は減り、当社のカスタマーサポートチームと技術者は問題解決よりも、付加価値のある活動により多くの時間を割くことができます。」

Peter Jidesjö
EVPサービス

安全で尊重される職場

Permobilでは、すべての従業員にとって良好な労働環境を備えた安全で健康的な職場づくりに取り組んでいます。

- 目標：労災事故ゼロ
- 実績：労災事故18件 - 2020年を7件上回り、2019年から全体的に減少

当社のアプローチ

Permobilでは、従業員が肉体的および精神的に安全だと感じる環境整備が最優先事項となっています。当社は、全従業員を対象として、職場の事故を最小限に抑えることを中心に安全と福祉の強固な文化を奨励しています。

当社の主要業績評価指標は、労災事故（従業員が仕事を休むほど重大な事故）に関するものです。労災事故を削減し、報告手順や内容を改善するために、いくつかの対策に投資し導入してきました。

これらには以下のようなものがあります。

- 危険およびインシデントの正式なデータ取得
- 主要業績評価指標（KPI）の精査
- 報告により特定された重点分野に取り組むための実践的なアクション
- 正しい行動とベストプラクティスについての意識を高めるために、管理職と一般従業員との間で継続的に話し合う

私たちは、やるべきことが他にもあることを認識しています。当社は、報告で特定された問題に対処するために積極的に努力しており、常に改善の方法を模索しています。

2021年に起きたこと

2019年にグローバル安全衛生報告を開始して以来、すべての事故とインシデントが大幅に減少しています。しかし、2021年の第3四半期には、手作業、人間工学、つまずき、転倒などの要因に関連する労災事故が増加しました。第4四半期には、これらの問題やその他の健康、安全、福祉の問題に対処するために、以下の措置を講じました。

- ほとんどの安全衛生問題が特定されたアメリカ州では、第3/第4四半期にSafeworksプログラムが導入されました。Safeworksプログラムは、安全衛生のベストプラクティスを組み込むための構造化および標準化されたアプローチの構築を目指しています。その一環として、各拠点で安全アクションチームが設置されました。同チームには、活動の推進、インシデントの監視、および実践的で実行可能なステップの考案という任務が与えられています。また、上級チームが安全計画を実行に移せるよう、2つのリーダーシッププログラムも開始されました。
- アジア太平洋地域（APAC）の拠点では、従業員のメンタルヘルスと福祉をサポートする従業員支援プログラム（EAP）を導入しました。より幸せで集中力の高い従業員は、事故に遭う確率も低くなります。さらに、ニュージーランドでは除細動器を設置し、オーストラリアでは企業の労働衛生要件のグローバル基準であるISO 45001認証を更新しました。中国の昆山にある当社の生産施設では、2021年の労災事故はゼロでした。
- 欧州、中東、アフリカ（EMEA）の各拠点にはグローバル報告ツールを導入し、グッドプラクティスの標準化を支援しています。マネージャーの90%は、すでにその使い方についての研修を受けています。また、安全運転研修を実施し、マネージャーがチームとともに定期的にこれを見直すことができるようにしました。生産ユニットでは、危険の特定と減少に向けて取り組みを強化しています。

2021年は、報告に基づいて優先分野を見直し、それらが明確に定義され、妥当性を持ち、かつ野心的であることを確認しました。



2022年の計画

当社は、優れた慣行、意識向上、および積極的な行動の標準化に役立つ、労働衛生に関するグローバル報告ツールを引き続き展開しています。マネージャーや従業員は、このツールを使用して、職場環境を可能な限り安全に維持する方法について話し合うことができます。

また、労働衛生インフラを強化するための対策についても、報告内容に基づいて引き続き導入していきます。これらの対策には以下が含まれます。

- **アメリカ州**では、重量物の取り扱いによる筋肉の負担や運動関連の怪我のリスクを低減する、マンドレルリフター（電動圧延機）と電動マンドレルカートを設置する予定です。ROHO生産ラインの自動化を強化し、人間工学的な負傷および反復運動による怪我を最小限に抑えます。
- **APACの拠点**では、当社のインシデント報告ツールを市場規模で使用するよう取り組んでいます。また、専任の安全衛生推進チームを設置し、まずインシデントの集中度が高いオーストラリアとニュージーランドを優先し、その後日本と中国に展開します。さらに、APACの全従業員に交通安全研修を提供します。
- **EMEAの拠点**では当社の報告ツールがすでに完全実装されているため、全従業員に必須の労働衛生関連の研修を実施します。



「安全が一番大事です。私たちは皆、一日の終わりに無事に帰宅したいと思っています。チームにとって重要なのは、違和感を感じる作業をしないことです。新しいプロセスを導入する場合は、積極的に支援や追加研修を求めるようチームに勧めています。」

Kevin Little

製作担当、生産部門、米国ニューベルリン市

ダイバーシティと インクルージョン

私たちは、ダイバーシティとインクルージョンの文化を育むことが、当社の価値観の実践、目的の達成、および行動規範の遵守に向けた正しい行動であると信じています。

- 目標：男女比 6：4
- 目標：従業員アンケートで10人中8人の従業員が、当社はインクルーシブな会社であると回答すること
- 目標：2022年に職場のアクセシビリティ目標を設定する
- 実績：グループ経営管理職のジェンダーバランス：男女比 6：4
- 実績：ジェンダーバランス：男女比 67/33
- 実績：インクルージョン：Let's Talk 2021による測定値は68%で、2020年から+5%

当社のアプローチ

私たちは、誰であろうと、すべてのスタッフにとって利用しやすい職場作りに努めています。当社のミッションは、従業員が差別を受けたと感じることがなく、常に仕事に全力を尽くせる環境を整備することです。

ダイバーシティとインクルージョンは、チームの福祉と幸福のために不可欠であるだけでなく、会社としての生産性と成功にも欠かせません。多様なグループは、均質なグループよりも優れた意思決定を行い、両性のバランスが取れているチームの方が優れたパフォーマンスを発揮します。障がいを持つ従業員がいることは、顧客をより良く理解するのに役立ちます。

従業員アンケート – Let's Talk – の報告を使用して、従業員全体におけるダイバーシティとインクルージョンに関する問題を確認および対処します。これには3つの重要な行動分野があります。

- 職場のアクセシビリティ
- インクルージョンに関する従業員の認識
- 人事プロセス

2021年に起きたこと

2021年末までに当社が行った変更により、グループ経営管理職の男女比が6：4になりました。しかし、会社全体のジェンダーバランスは目標から若干離れ、女性が33%、男性が67%となり、2020年と比較して2%変化しました。

世界中のPermobilの拠点で働く拠点マネージャーは、障がいを持つ人々（運動障がいに関するものだけでなく）が職場にどの程度アクセスできるかについての自己評価アンケートに回答しました。その結果、27人中25人が、職場環境はすべての従業員にとって等しく快適であると回答しました。

2021年、私たちは年次Let's Talkアンケートを全従業員に送信しました。アンケート結果は、プラスの変化が数年にわたって続いている傾向を示しています。ダイバーシティとインクルージョンに関するLet's Talkのインクルージョン指数は、2021年に5%改善して68%となりました。近年、社内のコミュニケーションと対話をあらゆるレベルで強化するため、そして数年にわたる急速な成長を経てPermobilの共通のアイデンティティを構築するために、多くの作業が行われています。

2022年の計画

今年は、Permobilにおける現行の職場アクセシビリティのベースラインを確立するために、アンケートを実施します。鍵となるのは、ダイバーシティとインクルージョンに関する当社の文化を詳しく見ていくことです。

新しい重点分野と行動を特定するために、さまざまな従業員グループのマネージャーが主導するフォローアップディスカッションが行われます。その他の計画されたアクションとイニシアチブには、以下が含まれます。

- Permobilの作業現場のアクセシビリティを追跡し、改善すべき分野を特定する
- Let's Talkアンケートの特定の質問に対する従業員の回答を評価し、肯定的ではない感じ方の背景に何があるかを理解し、必要な行動を特定する
- 応募者プールが多様であることの確認を含めて、当社のダイバーシティとインクルージョン目標をサポートするために、人事プロセスと人材管理慣行を見直す。

Back to the Future

インクルーシブな営業チーム



2019年11月、中国でBack to the Futureプログラムが開始されました。これは、車いすのユーザーが各自のスキルや能力に合った仕事ができるように支援するプロジェクトです。

まず、新規メンバー7人が直販チームに加わるトライアルから始めました。新規採用者は優れたモチベーションとコミットメントを示しただけでなく、クライアントと素晴らしい信頼関係を築くことができました。なぜなら、彼ら自身がクライアントの直面している課題を理解し、共感できるからです。新規採用者は、プロジェクト、ブランド、価値観の強力なアンバサダーとして行動しただけでなく、売上を促進することができました。

何よりも重要なのは、このイニシアチブが、関与した人々に与えたプラスの影響を知ることです。ここで、プログラムを通じて採用された同僚からの証言を取り上げます。

Back to the Futureプログラムが成功を収めた後、同プログラムは現在、中国における当社の営業と事業に不可欠な要素となっています。

「オンボーディングトレーニングの日から、私はチームのポジティブな雰囲気と皆の笑顔に包まれていました。私が問題に悩んでいたとき、QP [Chau, MD Permobil China]は常にこう言ってくれました：「大丈夫だ。一緒に解決しよう」私はこれで励まされ、自信を持つことができました。あたたかいチームは私に喜びを与えるだけでなく、一生懸命働く意欲も掻き立ててくれました！」

Chonglin Yang

インクルーシブな営業チームメンバー

倫理的な ビジネス

Permobilは、バリューチェーン、顧客、サプライヤー、当社の企業としての慣行、これらすべてにわたって持続可能で倫理的な開発を推進したいと考えています。私たちは、協調的な文化およびサプライヤーとの健全でオープンな対話を創出し、より良い、より安全で、より幸せな社会を支援するべく前進していきます。

- 目標：全スタッフの90%が当社の行動規範に関する研修を受講
- 実績：2021年：92%

当社のアプローチ

Permobilの従業員向け行動規範は、倫理的なビジネスを定義し、確保するための重要なツールのひとつです。本規範は、ダイバーシティと差別禁止、人権、安全衛生、文化、顧客との関係、機密保持、贈収賄と汚職防止、競争、利益相反、声を上げる、競争、貿易制限、環境保護について取り上げています。

行動規範研修の受講は、オフィス勤務または工場勤務にかかわらず、Permobilの従業員全員に義務付けられています。スタッフの離職率を7%と想定しているため、目標は90%に設定されています。また、買収により事業が拡大したため、Permobilファミリーの新メンバーは、時間をかけて当社に馴染み、研修を受けることができます。

Permobilには内部告発ホットラインがあり、従業員やその他のステークホルダーは現地の言語で懸念を報告することができます。懸念の報告は、Permobilの人事および法務チームと適宜密接に連携する外部サービスによって審査されます。

2021年に私たちが行ったこと

行動規範研修を受けた従業員の割合は、91%（2020年）から92%（2021年）に増加しました。私たちは、社内コミュニケーションチャンネルを通して行動規範をより重点的に周知しました。また、Permobil導入プログラムに行動規範研修を導入しました。

2022年の計画

今後は、行動規範研修の年次展開を継続し、当社のコアバリューである、ユーザーファースト、リーダーシップ、情熱、信頼に関する社内知識を深めていきます。

責任ある調達

- 目標：調達支出サプライチェーンの98%がサプライヤー行動規範を支持
- 目標：高リスクサプライヤーの100%をスクリーニング
- 目標：中リスクサプライヤーの20%をスクリーニング
- 実績：89%がサプライヤー行動規範に直接署名し、さらに9%が当社の契約条件を通じて間接的にこれを承諾しました
- 実績：高リスクサプライヤーの88%をスクリーニング
- 実績：中リスクサプライヤーの18%をスクリーニング

当社のアプローチ

当社は、サプライヤーが当社とともに社会的責任のアンバサダーとなるよう、力を与えることができると信じています。当社にとって、すべてのサプライヤーは強固でポジティブな関係を築くべきパートナーです。この絆を通して、私たちは社会にとって正しいことを行うために協力することができます。Permobilは、サプライチェーンのあらゆる段階で、高い水準の責任ある調達を確保するための堅牢なフレームワークを有しています。

まず、すべての新規サプライヤーが署名しなければならない行動規範があります。これには、ダイバーシティや差別禁止、人権、顧客との関係、賄賂防止、汚職防止などの分野が含まれています。また、材料の調達プロセスを改善するために、紛争鉱物に関する透明性も要求しています。すべてのサプライヤーは、国際労働機関の基準に従って業務を行っていることを示す必要があります。

当社のアプローチ

当社は、制裁リストに掲載されている国と決して取引しません。当社は、高リスクおよび中リスクのサプライヤーを審査し、そのサステナビリティのリスクを評価しています。これらは、汚職リスクが高い国のサプライヤー、または金属や化学物質など、環境への負荷が高い材料を供給するサプライヤーである可能性があります。当社では、すべてのサプライヤーに3年ごとの自己評価を実施するよう求めており、サプライヤーと密接に協力して是正措置を講じています。

私たちにとって、サプライヤーとの関係における環境要因は極めて重要です。当社は、すべてのパートナーが最高の環境・サステナビリティ基準を確実に提供すること（または提供に向けて努力すること）を重視しています。

2021年に私たちが行ったこと

責任ある調達を推進を継続し、サプライヤー行動規範または契約条件に署名したサプライヤー支出の割合を98%に引き上げました。高リスクサプライヤーの88%（目標100%）、中リスクサプライヤーの18%（目標20%）がスクリーニングされました。新型コロナウイルス感染症の流行により、当社は高リスクおよび中リスクのサプライヤーのスクリーニング目標値を達成できませんでした。

2022年の計画

パンデミックから脱却するにあたり、当社はサプライヤーの現地検分を復活させ、サプライヤー行動規範の実施とサステナビリティスクリーニングの実行において、体系的なアプローチの活用を継続する予定です。バリューチェーン全体でパートナーと連携し、進捗度を確認します。

「Permobilは、人々の生活を変える製品を作り、世界をより良い場所にしたいと考えています。倫理的なビジネスは正しいことであるだけでなく、私たちのあり方の一部です。」

Camilla Andersson

サステナビリティ・環境影響担当ディレクター



気候 変動

- 目標：スコープ1および2：2030年までに2018年のベースラインから70%削減
- 目標：スコープ3：2030年までに2019年のベースラインから20%削減
- 実績：スコープ1および2：2018年から16%削減した
- 実績：スコープ3：分類中

当社のアプローチ

当社は世界18か国に営業拠点を有し、年間数十万もの品目を生産しています。このため、私たちはPermobilが地球環境に影響を与えていることを認識しています。私たちは当社が与える影響に責任を持ち、その影響を最小限に抑えるよう努力しています。

2030年のスコープ1、2、3の排出量について野心的な目標を設定しました。現在、Permobilは環境管理システムを開発中ですが、当社の野心を実現するための能力とプロセスは継続的に強化しています。

当社の施設の多くは、たとえばティムラの包装材の再利用、オーイステルウェイクのLED電球への切り替え、ナッシュビルの木製パレットの再利用など、省エネと持続可能な慣行をすでに導入しています。次のステップでは、当社の事業で最もエネルギー消費の高い領域に絞ってCO2排出量を削減します。この方法により最大の削減効果が見込まれます。その後、他の施設や工場にも取り組んでいきます。スコープ3については、行動計画を立てる前に排出量の測定と分類に取り組んでいます。

今後は、以下にも取り組んでいきます。

- 循環型経済
- 廃棄物管理
- 化学物質および有害物質の使用。

2021年に私たちが行ったこと

当社は不動産開発業者であるVectura社とプロジェクトを立ち上げ、スウェーデンに新しい製造施設を建設しました。この施設は、炭素排出量を最小限に抑えるよう設計された複数の機能を備えています。新しい施設は2024年から稼働する予定です。

また、生産にはプラスチックとシーラントが関係しているため、Permobilで最もエネルギー消費の高い米国の4つ工場での再生可能エネルギーへの転換方法を模索しました。これらの工場は再生可能エネルギー源から離れた場所にあるため、再生可能エネルギー証書の取得が最も理に適ったオプションです。イリノイ州ベルビルでの施設は第4四半期に再生可能エネルギー証書に切り替えました。これにより、当社のグローバルスコープ1と2のCO2が前年比で8%削減されました。

本年中は、重要課題を優先し、行動計画の枠組みを設定するため、スコープ3の排出量の分析を行いました。

2022年の計画

米国の他の3つの施設では、再生可能エネルギー証書が採用されています。つまり、電力の排出量は実質的にゼロとなります。4つの施設すべてにおいて、これらの証書によりスコープ1と2の排出量が2018年のベースラインから合計44%削減される予定です。このように、当社は2030年の目標に向かって着々と進んでいます。

報告を行動へとつなげる中で、当社は改善プログラムに資するネットワークを全拠点にわたって構築しています。また、材料や部品の再利用、ソーラーパネルの増設、機械の予防保守など、全体的な影響を最小限に抑える方法についても検討します。当社のノルウェー事業はISO 14001認証を申請しており、他の事業についても認証の取得を検討しています。



Permobilで環境への影響を削減する5つの方法

- 1 スウェーデンのティムラにおける環境への取り組み：**
風力と水力という再生可能エネルギーを使用して工場に電力を供給し、パレットや段ボール箱はサプライヤーによって再利用されています。

- 2 米国における再生可能エネルギーの購入：**
2022年第1四半期末までに、最もエネルギーを消費する4つの施設すべてが再生可能エネルギー認証に転換され、使用する電力1メガワットごとにグリーンエネルギープロジェクトに資金を投入できるようになりました。

- 3 ナッシュビル施設の屋根にソーラーパネルを設置：**
米国ナッシュビル工場が建設された際に、ソーラーパネルが屋上に設置されました。2021年には69,670kWhの電力を供給し、30トン以上のCO2を節約しました。また、オランダのオーイステルウェイク工場にもソーラーパネルが設置されました。

- 4 オランダのオーイステルウェイクにおける発泡体の再利用：**
Supportecカスタムシート工場は、発泡体の切れ端（購入総額の約30%）をすべてサプライヤーに返品しています。切れ端は他の製品で再利用されます。

- 5 より詳細な環境報告：**
現在、当社は気候関連情報開示タスクフォース（TCFD）に報告を行い、当社のコンプライアンスギャップの理解に取り組んでいます。この重点化対策により、会社全体の意識が高まり、行動が促進されます。

毎日が パーティーのよう Juliのストーリー



私の名はJuliです。私は12歳で、母と治療犬のDexと一緒にドイツのアーヘンに住んでいます。

私は、身体の結合組織に影響を及ぼす疾患である、エーラス・ダンロス症候群（VII型）に罹患しています。私は1日20時間、横になっていなければなりません。ですから、座ってられる時間を学校やセラピー、友人と遊ぶなどして、最大限に活用しています。

3歳のとき、私はPermobilの車いすを初めて手にしました。それ以来いつも一緒に、その前の記憶がないくらいです！私はあらゆる瞬間を最大限に楽しみ、遊んだり、自分で物事をしたりするのが大好きです。すべて、車いすが助けてくれたから可能になりました。

幼稚園では、車いすが私をみんなと同じ高さに昇降してくれるので、私は友だちと遊んだり授業を受けることができました。2018年、私は通学からオンライン学習に切り替えました。こうすることで、必要なときに休息でき、自分の気分に応じて授業の時間を選べます。

今私が使っているモデル、F5 Corpusはとても速く、楽に動き回るためのジョイスティックが付いています。この車いすに乗って、私は子犬のDexと一緒に散歩し、Dexをトレーニングに連れて行きます。いつの日か、Dexは私が服を着たりドアを開けたりするのを手伝ってくれるでしょう。私たちは絆で結ばれ、ともに学び合っています！COVIDの流行前は、自宅から1キロメートル以上離れた治療セッションに一人で通っていました。そうすることで、母は毎日2～3時間、自分の時間を持つことができました。

私は歴史が好きなので、一人でF5に乗ってアーヘンの博物館に行き、お気に入りの展示物を楽しみます。このいすがあれば、あれこれして欲しいと母に頼む必要もありません。横たわりたいときは、F5でリクライニングします。快適で安全です。

私は前向きに生きて、毎日をパーティーのように楽しむのが大好きなんです！Permobil車いすで、私は自由に行動し、1秒1秒を大事に過ごすことができます。これがなければ、人生の楽しみは半減するでしょう！

詳細については、以下にお問い合わせください:

Jonas Cederhage

jonas.cederhage@permobil.com

Camilla Andersson

camilla.andersson@permobil.com